



巻頭言 新分館長 中内暁博先生
3代目館長！

第7号 CONTENTS

- ★巻頭言 中内暁博先生（沼津分館 館長）
- ★教員のオススメ本 加賀谷幹子先生
- ★学生のオススメ本 齋藤真歩さん
- ★司書の押し本
- ★お知らせ「静岡県図書館大会」参加募集
- ★開架閲覧室が更に使いやすくなりました！
- ★あとがき

～「知の宝庫で、あなただけの座右の書と向き合う」～

この度（令和8年度）、東都大学図書館沼津分館長を拝命いたしました。恐縮かつ身に余る名誉でございます。振り返れば、中学生の頃から図書館にお世話になって半世紀。そこは時に、一呼吸を置く憩いの場であり、あるいは、静かに自分を取り戻す救いの秘密基地でもありました。図書館があつての大学生活、そして研究者・教育者としての歩みといっても過言ではありません。今回の分館長就任を機に、初心に帰り、皆様と一緒にこの素晴らしい沼津の図書館の虜（とりこ）となり、さらなる自己成長を図ってまいりたいと存じます。

沼津分館の蔵書は年々充実しています。たとえば解剖生理学分野の『ネッター解剖学アトラス』。その臨場感あふれるリアルな解剖図を拝見するたびに、私は感動を覚えます。また、目まぐるしく変化する臨床現場において、専門職である看護学は常に最新知識へのアップデートが求められます。その源泉となる宝庫こそ、図書館の雑誌・蔵書なのです。さらに学生からの要望で設置した閲覧室の「パーティション」。これはまさに自然と集中力を高めてくれる空間です。無意識のうちに富士を望みながら、自分自身と対話できるプライベートな場所。ぜひ一度、足を運んで、あなただけのマイスペースを見つけてください。自宅や教室にはない、リラックスと集中が両立する図書館の魅力を存分に味わっていただきたいです。

特に、国家試験対策関連コーナーでは、問題集の貸出運用も始まりました。過去問題集、予想問題集、必修対策本、分野別参考書——あらゆるアイテムが揃っています。「どの問題集を選べばいいかわからない」「ひとりでは集中できない」「どうしても苦手分野が克服できない」。そんな時は、ぜひこのコーナーに足を運んでください。きっとあなたにぴったりの一冊、そして新たな気づきとの出会いがあります。看護師国家試験・保健師国家試験の受験生の皆さん、沼津分館は、皆さんの合格を心から応援しています。

また、「同じ目標を持つ仲間が存在」も、図書館の大きな力です。真剣に机に向かう誰かの背中からは、無言の励ましになります。そして、もし行き詰まったら、深呼吸して窓の外の景色を眺めてみてください。きっと、また一步前に進む力が湧いてきます。

さあ、厳しく長い授業の合間のちょっとした憩い、あるいは自習やディスカッションの場として、本棚は最善の友になります。既知の確認だけでなく、新しいアイデアが生まれる瞬間でもあります。

皆様のご来館を、心からお待ちしております！

沼津分館 館長 中内 暁博



『子どもへのまなざし』
佐々木 正美 著
山脇 百合子 画
福音館書店

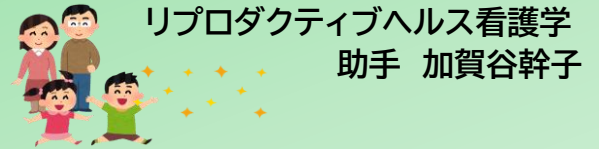
教員のオススメ本

佐々木正美著『子どもへのまなざし』

子どもに関わるすべての人、そして子ども時代を経験した人に読んでほしい一冊です。

本書は自身の成長過程を振り返りながら、子どものあり方や子どもの視点について改めて学ぶことができる内容となっています。また大人として子どもにどのようなまなざしを向けるべきか、その本質について、時にはエリクソンやピアジェの発達理論を交えながら分かりやすく解説されています。ページ数は多めですが、目次から興味のある章を選んで読むこともできるため、無理なく読み進められるのも魅力の一つです。本書の発行から 28 年経った今でも、その内容は色あせることなく読み手の心に響きます。

時代が変わっても、子どもの成長にとって大切なことは普遍的であることを実感させてくれる一冊です。近年、国は「こどもまんなか社会」の実現を掲げています。「こどもまんなか」とはどのような社会なのでしょう。本書を通して、子どもの視点や思いに寄り添うことの大切さについて、改めて考えてみませんか。



リプロダクティブヘルス看護学
助手 加賀谷幹子

学生のオススメ本

沼津ヒューマンケア学部 看護学科4年
齋藤真歩

①



太宰 治
『走れ メロス』
(新潮社刊)

①太宰 治 『ダス・ゲマイネ』(『走れ メロス』収録)

「どうせ 僕なんて」

そう言いながら、誰よりも自分を気にしている。
見栄、嫉妬、恋、友情、そして自己嫌悪。
格好よく生きたいのに、どうしてもカッコよくならない。
そんな不器用な人間たちの姿を、太宰治がユーモアと皮肉を
交えて描き出す。
笑ってしまうのに、なぜか他人事じゃない。



この本は沼津キャンパスに
所蔵があります。
請求番号:B913.6/D

人間の「ダサさ」も「弱さ」も、全部ひっくるめて愛おしくなる-
太宰治の青春小説『ダス・ゲマイネ』

②



『殺し屋の営業術』
講談社 野宮 有/著

②野宮 有 『殺し屋の営業術』

「営業って、こんなに命懸けだっけ？」

ノルマ・契約・顧客・成績
どこにでもある営業の世界。
……ただし、これは殺し屋の営業術。
裏切り、殺人、失禁、監禁
笑えないはずなのに、なぜか口角が緩む
最後に生き残るのは誰だ？命は商材？
ページをめくれば、あなたもこの「営業」に巻き込まれる。
何でもアリの悪魔の舞台。『殺し屋の営業術』
彼を相手に生き延びることが出来るのか！？

～第 71 回江戸川乱歩賞～

この本2冊は沼津キャンパス
に所蔵があります。
請求番号:913.6/N

③



『殺し屋の出世術』
講談社 野宮 有/著

③野宮 有 『殺し屋の出世術』

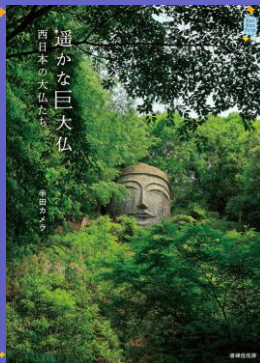
貴方もきっと、あの悪魔の虜になる。
※『殺し屋の営業術』の続編になります。注意して読むべし。



①



②



①『夢みる巨大仏』
東日本の大仏たち
半田カメラ 著/書肆侃侃房

②『遥かな巨大仏』
西日本の大仏たち
半田カメラ 著/書肆侃侃房

この本は沼津キャンパスに
所蔵があります。
請求番号: 718.021/H



ちょっと見たい でも怖い！ ～司書の押し本～

私は以前より、大きい物が苦手でした。大きい物が近くにあると見ないように下を向き、顔をそらし、目に飛び込まないようにしていました。地元には大きなものが沢山あるため通学時は非常に苦労しました。例えば煙突、果てしなく高いその赤と白の巨大なコントラストのボーダーは今にも吸い込まれそうになるくらいの恐怖を覚えました。そして、静岡県民が愛してやまない**富士山** これは、もう逃げ場がないくらいどこからでも「**めっ**」と見えてしまいます。特に雪を被った白い富士山は夏富士の 2 倍増しでこちらに迫ってくる勢いが感じられ、追いかけてきそうでダッシュで登下校したものでした。

自分が「**巨大物恐怖症**」(**メガロフォビア**)という心理状態だったと知ったのはだいぶ後になってからです。中学生になってからは、さすがに毎日見ている煙突や富士山は見慣れてきましたが、更にそれを上回るものが登場します。それが「**巨大仏**」です。はじめに怖いと感じたのは大船駅から見える「**大船観音**」でした。今回紹介した『夢みる巨大仏』でも大船観音を紹介していますが、とにかく真っ白いそのビジュアルに見下ろされると直視する事が出来ない恐ろしさであると同時にちょっとだけ、指の隙間から覗いてみたいという怖いもの見たさも、掻き立てられます。夜になると青白くライトアップされ、昼間とは違う不気味さを感じます。この「大船観音」は色々な都市伝説があり、「下半身は山の中に埋まっている」「昔は全身があった」「地盤沈下で埋まってしまった」などなど、上半身だけが山から突き出している特殊なこの観音は色々な噂があります。観音の胎内は入れるようになっていて、その中にはまさかの「もう一つの顔」があるようです。詳しくは『夢みる巨大仏』でお楽しみ下さい。

また同シリーズ西日本編の『遥かな巨大仏』で紹介されている京都東山の「**霊山観音**」も迫力が違います。修学旅行の時に知らずに高台寺界隈を散策していたら「**めおっ！**」と真っ白い顔が急に視界に現れて、恐怖でとにかく帽子を深くかぶり、その場から逃げ去りました。この「霊山観音」これだけ大きいのに清水寺付近を散策していても、姿がまったく見えないという不思議な現象があり、地形の関係でかなり近づかないと見えてこないようです。だから散策していた私の前に、突然白い大きな顔が「**ニョッ**」と現れたのかもしれません。それはもう「**京都タワー**」とともに京都の2大恐怖でした。京都タワーについては『遥かな巨大仏』でも触れています。

それからは観光地に行くときには突然の恐怖に備えておくように必ず巨大仏があるかを調べるようにしていますが、そんな時にこの 2 冊が大変役立ちました。横に寝ている大仏 頭だけの大仏 顔だけの大仏 天空に浮かぶ観音 世界一大きいお地蔵様 巨大招き猫 様々な巨大仏や巨大物を紹介しています。「**高崎白衣観音**」はス〜ッと今にも動き出しそうで、神秘的でもあり、怖くもあり妖艶な美しさがあります。特に『夢みる巨大仏』で紹介されている「**仙台大観音**」は、とにかく凄過ぎる！の一言に尽きます。遠近感がわからなくなるくらいのその大きさと白さ、特殊撮影なのかと思うくらい周りが、小さく見えるゴジラ感など、その非現実的な感じが、この本からも伝わってきます。実物を見たら相当な物だろうと推測します。日本にはこんなに多くの私が恐れる巨大仏があると知った時、もしかしたら、写真で巨大物恐怖症を克服できるかもしれないと考えました。「巨大仏を見るには心の準備が必要だ。予想していないからこそ、突然現れたら恐怖を刺激するのではないかと」と結果、室内にある巨大仏など(奈良・東大寺の大仏、鎌倉・長谷寺の長谷観音)は克服することが出来ました。ただ やはり外で見る巨大仏は今でもゾッとしてしまいます。その証拠に 伊東にある宇佐美観音が怖くて、未だ伊東方面に行けません。

著者のカメラマンである半田カメラさんの写真は東日本編も西日本編も大変美しく、山の上にある大仏撮影や、どの写真を見ても人が映り込んでいない写真などは撮影が大変だったのではないかと感じます。東日本編では静岡県の巨大仏も紹介されています。是非皆さんも「**めっ**」を体験してみてください。

「静岡県図書館大会」参加者募集中！

講演会「日本語沼」へようこそ
～辞書を作る立場から～(講師:飯間浩明氏)

5つの分科会で、図書館サービスの充実
と発展を考えます。12月7日開催。

申込み期限は10月30日

詳細は大会詳細ページをご覧ください。



大会詳細



開架閲覧室が更に使いやすくなりました！

それは一人の「学生の声」がきっかけでした

巻頭言でも中内館長がご紹介しましたが、開架閲覧室に「木製パーテーション」を設置しました。きっかけは1人の「学生からの声」でした。「勉強をされていて、左右が気になってしまう 視聴覚ブースみたいな仕切りがあれば、もっと集中出来るのに」と。多くの大学図書館に設置されている「キャレルデスク」があれば良いのですが、限られた横長のスペースのため設置が難しく適度な場所がない。そこで、自由自在に動かせるパーテーションを設置し、いつでも自分だけの空間を確保できるように整えました。もちろんパーテーションを使わず仲間と相談しながら広い空間で学習するもよし、集中したい時は左右にパーテーションを置いてライトをつけて個人部屋のようにするもよし、学生の皆さんの思うように利用してもらえると嬉しいです。図書館では、いつでも皆さんの「声」をお待ちしています。困った事、改善して欲しい事 何でもお気軽に「ご意見・ご要望」をお寄せください。



～あとがき～

図書館通信第7号いかがだったでしょうか？今号は、初の「学生のオススメ本」の紹介をしました。皆さんもどんなジャンルでも良いので、オススメ本などがありましたら是非教えてください。図書館通信で紹介させていただきます。

今年の夏も本当に暑かったですね。まさに「酷暑」でした。後期がはじまり、そろそろ残暑の疲れも出てくる頃ですね。図書館では夏の疲れを吹き飛ばすような本も多くあります。秋の夜長に読書タイムを楽しんでみてくださいね。

【第7号】2026年10月2日発行

【発行 者】 東都大学沼津キャンパス 図書館運営委員会

【編集協力】 中内暁博(図書館長)
玉城紫乃(看護学科 在宅看護)
早川映理(看護学科 高齢者看護)

【編 集】 中山祐子(沼津分館 司書)

